

【報告】

## 雛人形の展示－観る側の視点からの調査と考察－

Exhibition of Hina Dolls

－Investigation and Consideration from the Viewpoint of a Visitor－

塩川 友弥子

Yumiko SHIOKAWA

### はじめに

近年、上巳の節句の時期が近づくと、雛祭りのイベントが各地で開催され、街ぐるみの雛人形展示も散見されるようになってきている。

このような状況にあって、博物館では、雛人形の展示はどのように行われているのか。博物館ではどのような雛人形が展示されているのか。博物館において雛人形が展示される場合、「見せ方」に違いはあるのか。雛人形展示に際して、「見せ方」の工夫はされているかなど、博物館における雛人形の展示について、観る側の視点から調査を行った。

本稿は、調査の結果を提示するとともに、若干の考察を加えるものである。

### 1 調査の概要

#### 1-1 事前の資料調査

博物館における雛人形展示について調査するにあたり、事前に、雛人形展示に関して資料による調査を行った。その結果、これまでに雛人形展示を開催したことがある博物館として、博物館発行の紀要・年報・館報等(お茶の水女子大学博物館学資料室所蔵)(～2005年)から69館(雛人形を所蔵しているが展示をしたことがない博物館として31館)、日本博物館協会発行『博物館研究』掲載の「今月のもよおし」(Vol.34～42)(1999年4月～2007年3月)から74館が確認された。さらに、雛人形の関係書・雑誌・情報紙等から73館、インターネットのホームページ(2006年・2007年)からも76館が確認された。

以上から重複するものを除き、2007年までに雛人形展示を開催したことがある博物館として194館が把握された。

しかし、この雛人形を展示したことがある194館の博物館が、毎年、雛人形展示を開催しているわけではない。数年に1度の開催や不定期開催もある。したがって、雛人形を展示している博物館の数と、これまでに雛人形展示を開催したことがある博物館の数とは当然ながら一致しない。2007年の場合では、雛人形展示の開催が確認された博物館は81館であり、雛人形展示を開催したことがある博物館194館の42%である。

## 1-2 調査した雛人形展示の博物館について

雛人形展示を調査(2003～2007・2009年)した博物館数は68館であるが、本稿では、このうち、非公開(1)、常設(2)、調査後の統廃合(3)、私設(2)を除いた60館(若干の私的機関を含む)を調査結果の提示および考察の対象とする。

この60館についての、館種別および設置者別の館数とその割合、展示の種類別、展示の開始日・終了日と展示日数は以下の通りである。

### 1-2-1 博物館の館種別・設置者別

調査した雛人形を展示する博物館の館種別および設置者別の館数および割合(以下、括弧内に%で表示)は以下の通りとなる。館種別では「総合」が2館(3%)、「歴史系」が37館(62%)、「美術系」が16館(27%)、「郷土系」が5館(8%)であり(注1)(図1)、設置者別では、「国立」が3館(5%)、「県立」が5館(8%)、「市区町立」が25館(42%)、「財団立」が16館(27%)、「その他」(大学立、宗教法人立他)が11館(18%)である(図2)。

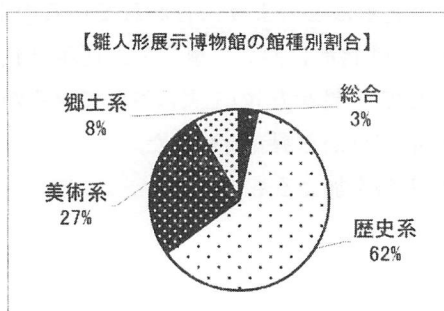


図1 雛人形展示博物館の館種別割合

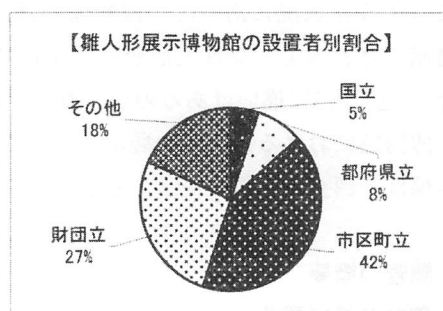


図2 雛人形展示博物館の設置者別割合

### 1-2-2 展示の種類別

雛人形展示の種類別は、調査年のものである。特別展示(特別陳列・特集展示など特の字が冠されているものを含む)や企画展示(企画の字が冠されているもの)が恒例となっている博物館がある一方、調査年は特別展示であったが例年は企画展示、調査年はエントランスホールでの展示であったが、前年は大規模な企画展示、また、不定期開催の博物館であるが、調査年は企画展示であったという場合もある。

以下は、展示の種類別数とその割合である。

「特別展示」が15(25%)、「企画展示」が16(27%)、「タイトルのみ」(雛人形展、雛人形祭り等だけで、何も冠されていないもの)が21(35%)、「その他」(テーマ展、第〇〇回展、季節展などと冠されているもの)が8(13%)である。

### 1-2-3 展示の開始日・終了日と展示日数

展示の開始日は、早いものでは1月中旬(1月17日)、遅いものでは3月初旬(3月3日)であり、

展示の終了日は、早いものでは3月初旬(3月4日)、遅いものでは5月初旬(5月8日)である。

展示日数は、短いもので23日、長いもので92日である。

なお、展示日数が9日(1月20日～1月28日)(吉徳資料室 2007年)と極端に短い例(この場合は雑祭りの日を含んでいない)がある一方、展示日数が161日(1月2日～7月11日)(鎌倉古陶美術館 2004年)に及ぶ長い例もあり、また、展示が秋季(10月8日～12月4日)(とちぎ蔵の街美術館 2005年)という例もある。

2006年および2007年に調査した41館について展示の開催状況を見ると、展示の開始月は1月が6館(15%)、2月が32館(78%)、3月が3館(7%)、展示の終了日は1日が1館(2%)、3月が16館(39%)、4月が24館(59%)である(図3・4)(末尾の付図参照)。

展示日数は30日以下が5館(10%)、31～40日が11館(27%)、41～50日が10館(24%)、51～60日が11館(27%)、61日以上が5館(12%)であり(図5)、平均展示日数は45.5日である。

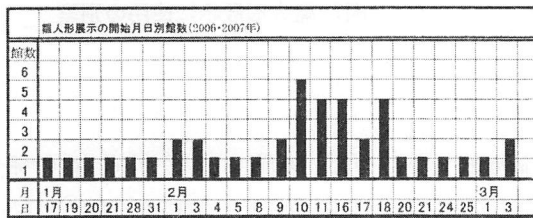


図3 雛人形展示の開始月日別館数(2006・2007年)

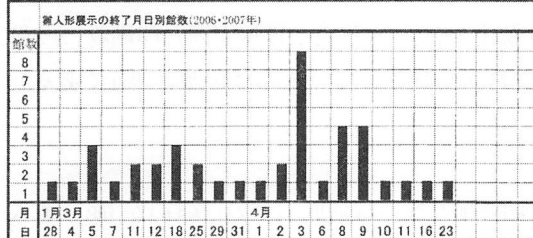


図4 雛人形展示の終了月日別館数(2006・2007年)

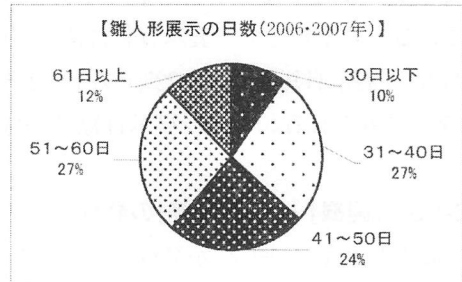


図5 雛人形展示の日数(2006・2007年)

## 2 調査(実見)した展示について I

調査(実見)に当たっては、数量的に捉えられる事項として「使用展示室数」、「展示解説シート」、「展示目録」および「図録と資料集等」を、視覚的に捉えられる事項として「展示ケース使用の状況」および「解説パネル」・「キャプション」の掲示状況をチェック項目とした。

調査により得られた数値は以下の通りである。

### 2-1 数量的に捉えられる事項

#### 2-1-1 「使用展示室数」

展示室使用の状況は、展示室を「1室のみ使用」が34館(57%)、「複数室使用」(旧邸宅等を博物館として使用の8館を含む)が17館(28%)、「部分使用」(1室の1/2使用、一部分使用を含

む)が9館(15%)である(図6)。

なお、展示室以外の別室も使用した展示が19館にみられた。別室の種類とそれぞれの使用数は、博物館に移設された「古民家」を使用が4館(21%)、展示室に隣接または別棟の「和室」を使用が4館(21%)、「エントランスホール」を使用が5館(26%)、「その他」(常設展示室の一部や廊下等)を使用が6館(32%)となる(図7)。

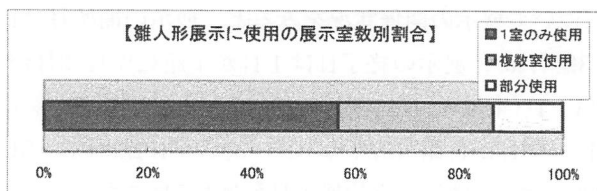


図6 雛人形展示に使用の展示室別割合

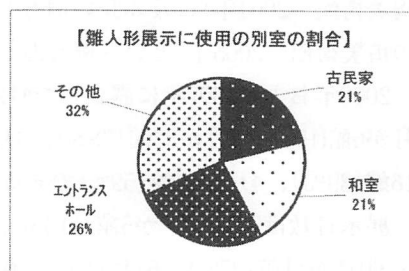


図7 雛人形展示に使用の別室

## 2-1-2 「展示解説シート」と「展示目録」

展示を観る者が自由に入手できる印刷物が置かれていたのは、34館(57%)の46点(複数種の印刷物を置いている場合が複数館)である。しかし、これらの中には、雛祭り・雛人形に関する一般的な説明や展示案内程度であって、展示資料の解説とはいええないものも含まれている。したがって、展示資料に関する印刷物としては、「展示解説シート」が14館(23%)の25点、「展示目録」が13館(22%)の13点である。「解説+目録」(解説と目録が同じ印刷物)が3館(5%)にみられる。なお、「展示目録」に全展示資料が掲載されているのは10館(17%)である。

## 2-1-3 「図録」・「資料集等」の発行

調査した年に「図録」が発行されていたのは4館(雛人形の特別展示等の「図録」が3館、雛人形が掲載されている館蔵品の「図録」が1館)である。

なお、「図録」に類するものが2館から10点(奥付に「図録」とあり、多数の写真と論考が掲載されているもので2001～2007年分7点、および、「パンフレット」と記されているが、多数の解説付き写真と全展示資料の目録が掲載されているもので2005～2007年分3点)が得られた。

なお、今回の調査において、既刊の「図録」・「資料集等」が確認できたのは20館の24点(1館で複数の図録・資料集等の発行がある)である。

以上から、調査年発行および既刊を合わせ、「図録」「資料集等」の発行が確認できたのは25館となる。

## 2-2 視覚的に捉えられる事項

### 2-2-1 「展示ケース使用の状況」

「展示ケース使用の状況」に関しては、調査後に筆者が作製した展示資料配置図によるもの

であり概略である。展示資料の全てに展示ケースを使用している場合（以下、ケース内展示とする）が36館（60%）、展示ケースを使用していない場合（以下、露出展示とする）が4館（7%）、ケース内展示が主で露出展示が従の場合が10館（17%）、ケース内展示と露出展示がほぼ同等の場合が5館（8%）、露出展示が主でケース内展示が従の場合が5館（8%）である（図8）。

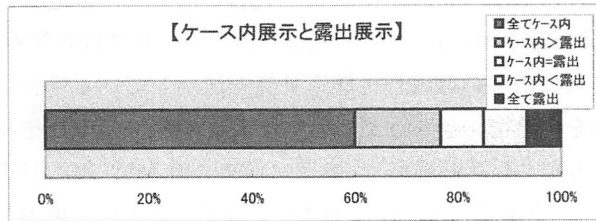


図8 ケース内展示と露出展示の割合

### 2-2-2 「解説パネル」・「キャプション」の掲示状況

「解説パネル」・「キャプション」の掲示状況については、掲示されている「解説パネル」および「キャプション」について、観る者にとって過不足なく掲示されているか、観る者が知りたい内容であるかどうかの観点から、目視による概数であるが4段階評価を行った。評価基準は、数量的にも内容的にも充分である場合を [4]、充分とはいえない場合を [3]、不十分な場合を [2]、極めて不十分な場合を [1] とし、掲示がない場合は [0] とした。

段階別の割合は、「解説パネル」については、[4]が25%、[3]が22%、[2]が33%、[1]が7%、[0]が13%であり、「キャプション」については、[4]が18%、[3]が35%、[2]が27%、[1]が20%、[0]が0%である（図9・10）。

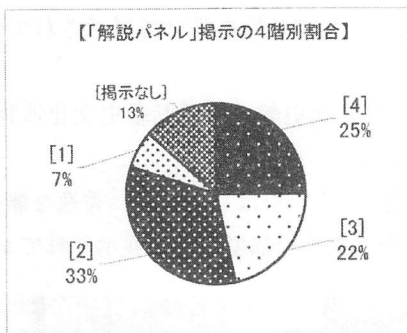


図9 「解説パネル」掲示の4段階別割合

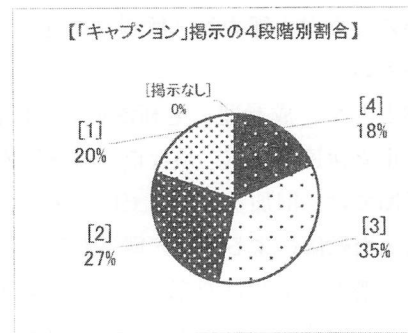


図10 「キャプション」掲示の4段階別割合

以上から、「解説パネル」が掲示されていた展示は87%、掲示されていなかった展示は13%であり、「キャプション」は全ての展示において掲示が見られること、「解説パネル」の掲示は、不十分な場合が最も多く、充分な場合がこれに次ぎ、「キャプション」の掲示は充分とはいえない場合が最も多く、不十分な場合がこれに次ぐ。

### 3 調査(実見)した展示について II

調査した雛人形の展示については、旧公家・大名家に伝来の雛人形・雛道具を展示している場合、旧豪商・豪農家に伝来の雛人形・雛道具を展示している場合、庶民の雛人形・雛道具を展示している場合についてみていく。旧公家・大名家に伝来の雛人形・雛道具等を展示している場合において、全てが旧公家・大名の雛人形・雛道具のみという場合は極めて少なく、婚礼衣裳など本物の衣裳類・婚礼道具あるいは参考資料等も併せた展示である。また、旧豪商・豪農家に伝来の雛人形・雛道具等を展示している場合においても、婚礼衣裳、庶民の雛人形等を併せての展示が見られる。したがって、それぞれの展示資料が主として展示されている場合とし、「旧公家・大名家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」、「旧豪商・豪農家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」および「庶民の雛人形・雛道具等の展示」とする。それぞれの館数およびその割合は、「旧公家・大名家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」が19館(32%)、「旧豪商・豪農家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」が7館(12%)、「庶民(町家)の雛人形・雛道具等の展示」が20館(33%)である。なお、以上は、観る側から捉えた分け方であり、展示される側(博物館側)とは異なる捉え方をしている場合があるかもしれないことを予めお断りしておく。

#### 3-1 「旧公家・大名家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」

「旧公家・大名家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」において展示されている雛人形・雛道具は、旧公家・大名家の娘たちの婚礼道具として特注された(といわれる)もので、雛人形の衣裳、特に内裏雛の衣裳(人形の大きさに合わせて紋様も縮小した別織)からは往時の大名生活の豪華さが推測される。また、雛道具は本物の婚礼道具を模したミニチュアであるので、本物が失われている場合などには、本物を推し量ることができる貴重な資料とされている。なお、雛人形・雛道具の他に、婚礼衣裳・婚礼道具等も併せて展示されている場合が多い。

事例として、成巽閣、毛利博物館、徴古館、茨城県立歴史館、愛媛県歴史文化博物館、宇和島市立伊達博物館、須坂市立博物館の展示を挙げる。

成巽閣では、旧加賀藩前田家に伝来の数々の内裏雛(写真1)をはじめとし、秀逸な雛道具類、著名な絵師による多数の雛屏風等が、旧奥方御殿の豪華な部屋ごとに展示されており、往時の豪華な大名生活を偲びながらの鑑賞を容易にしている。

毛利博物館では、旧長州藩毛利家に伝来の段飾り(めずらしい形式といわれる)が大型の展示ケース内に飾られ(写真2)、壁付き展示ケースには小さな内裏雛や雛道具が多数飾られている。一方、覗きケースには婚礼道具も展示され、雛道具との対比も楽しめる構成と

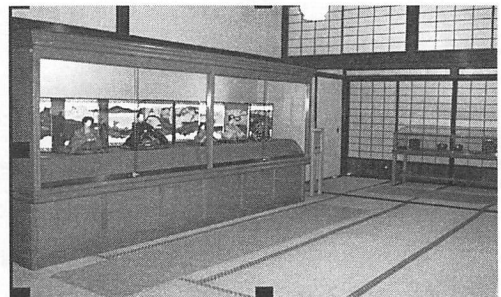


写真1 成巽閣

なっている。

徴古館では、旧佐賀藩鍋島家に伝来の多数の段飾りが展示室の両サイドに、中央には葵の御紋付き衣裳の御所人形、奥には銀製の雛道具（写真3）が展示されている。一方、皇室の慶事に因むボンボニエールも飾られ、旧徳川家や皇室との結びつきの深さが示されている。

茨城県立歴史館では一橋徳川家記念室において、一橋徳川家より寄贈された内裏雛・雛道具や婚礼衣裳が壁付き展示ケースに、中央には大型の御所人形も展示され、大名家の格調高い雅の世界が提示されている。

愛媛県歴史文化博物館では、旧西条藩第9代藩主に嫁いだ公家の娘が持参した雛人形・雛道具を主に、多数の雛人形から玩具まで、また、民俗展示室に移築された民家には旧家に伝来の段飾りが展示されている。

宇和島市立伊達博物館では、幅7.5mに及ぶ名工作の段飾りが露出展示されている他、大型の家紋入り雛道具、徳川第14代将軍家茂遺愛の小さな銀製雛道具がケース内展示されている。

須坂市立博物館では、展示室の右側に旧須坂藩主堀家に伝来の雛人形・雛道具、左側には春に因む桜の図譜が展示され、常設展示室にも市民所蔵の段飾りや内裏雛が展示されている。

### 3-2 「旧豪商・豪農家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」

「旧豪商・豪農家に伝来の雛人形・雛道具等の展示」において展示されている雛人形・雛道具は、婚礼時に持参された雛人形・雛道具の他、娘や孫の節句用に注文あるいは購入された超高級品が多く、往時の豪商・豪農の裕福度の提示ともなっている。事例として、長野県立歴史館、田中本家博物館、根津美術館、三井記念美術館の展示を挙げる。

長野県立歴史館では、往時の実業家が娘の節句用に求めた段飾りや、特注された家紋入りの雛道具（残存例が少なく貴重な名工作：写真4の左端）が、本物の調度類と対比的に展示されている。

田中本家博物館では、土蔵を修復した展示館に豪商田中家に伝来の多数の段飾りや名工

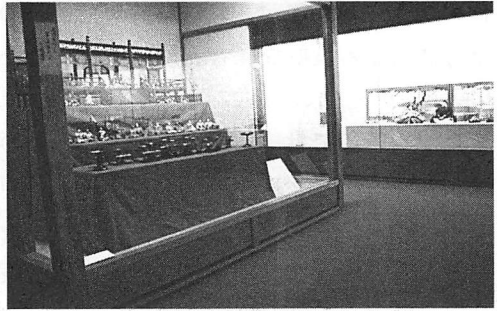


写真2 毛利博物館

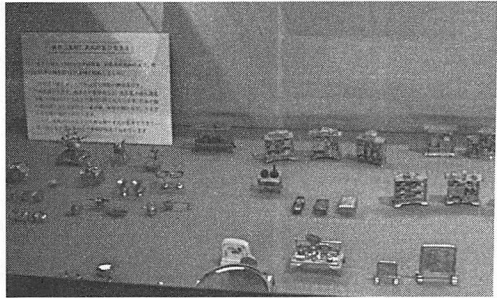


写真3 徴古館

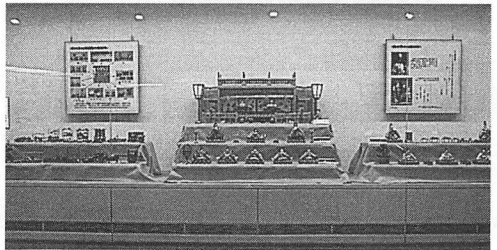


写真4 長野県立歴史館



作の雛人形等が展示され（写真5）、旧来の収蔵方法による良好な保存状態の証左ともなっている。

根津美術館では、和菓子の老舗に伝来の膨大な量の「京の名工」による雛人形と「江戸の名工」による雛道具その他が展示され、特に14段に及ぶ段飾りは、ガラスケース内に数段ずつに分け並べた展示となっている。

三井記念美術館では、旧財閥三井家の夫人や娘の豪華な雛人形・雛道具の展示である。2組の大きかりな段飾りは、展示室正面に設えられた長大なガラスケース内の展示となっている。

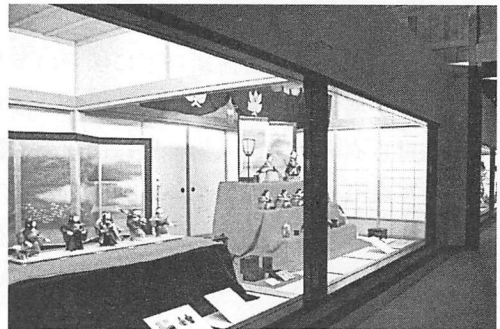


写真5 田中本家博物館

### 3-3 「庶民の雛人形・雛道具等の展示」

「庶民の雛人形・雛道具等の展示」は、「雛祭りを地域の年中行事の面から示す展示」、「地域性のある雛人形・雛道具の展示」および「旧大名・豪商・実業家・名士等に縁の雛人形・雛道具を含む展示」とする。

#### 3-3-1 「雛祭りを地域の年中行事の面から示す展示」

「雛祭りを地域の年中行事の面から示す展示」は3館（5%）であるが、雛祭りが地域の年中行事、庶民の生活文化の面から捉えられており、展示資料は博物館の近隣から寄贈されたものが多く、地域的特色を示す展示ともなっている。事例としては、羽村市郷土博物館、知多市歴史民俗博物館、豊橋市二川宿本陣資料館の展示を挙げる。

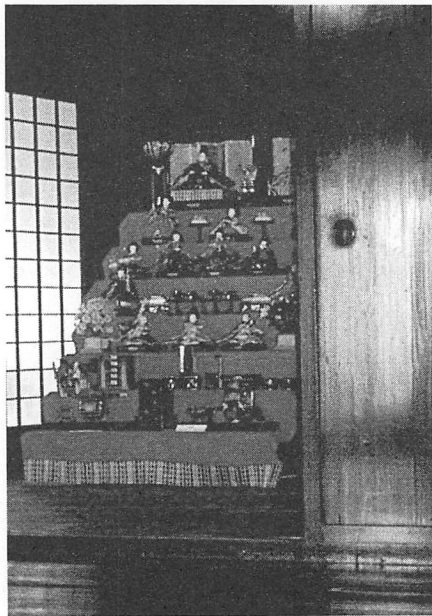


写真6 羽村市郷土博物館

羽村市郷土博物館では、近隣から寄贈された多数の段飾りが露出展示され、地域の雛祭りの風習を示すものとなっている。移築された古民家には子ども達も飾り付けを手伝ったという段飾りが展示され（写真6）、囲炉裏にはボランティアにより火も熾されて、博物館と地域との結びつきも窺われる。

知多市歴史民俗博物館では、展示室の周囲には、貴重な雛人形資料がケース内展示されている他は、地域的特色のある多数の御殿飾り、幼稚園児の作品による多数の段飾り、女の子の玩具類等が露出展示されている。展示室の中央には、子ども達が雛祭りを体験できるよう二組の畳を敷設した構成



となっている(写真7)。

豊橋市二川宿本陣資料館では、地域的特色のある多数の御殿飾りや天神雛が展示されている。一方、地域の人々による縮緬細工の供え物や大量の「つるし飾り」(地域により形式・呼称が異なる)などの製作・展示は、節句行事と地域の人々との結びつきも示すものとなっている。

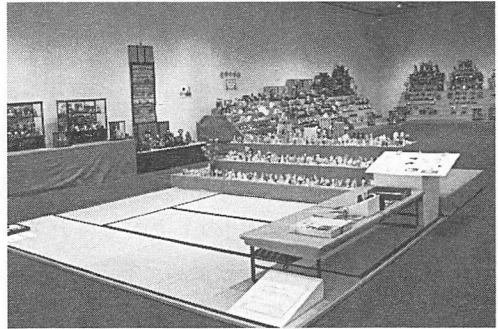


写真7 知多市歴史民俗博物館

### 3-3-2 「地域性のある雛人形・雛道具の展示」

「地域性のある雛人形・雛道具の展示」は6館(10%)である。地域的特色のある雛人形や段飾りの形式、郷土雛などには、雛人形作製の地域性や時代背景も表れている。事例として、田原市渥美郷土資料館、福山市鞆の浦歴史民俗資料館の展示を挙げる。

田原市渥美郷土資料館では、100体からなる地域性のある土人形(良質な瓦粘土と瓦職人の存在)が中央のケース内に展示され、周囲には地域色ある天神雛や御殿飾りが展示されている。(土人形の盛衰、御殿飾りの盛衰と時代背景については解説シートに詳しい。)

福山市鞆の浦歴史民俗資料館の展示には、唐獅子などが刺繍された長い袖が台座下にまで及ぶ「見栄雛」と通称される数体の女雛、幅3m近い御殿飾り等、古く潮待ちの港として栄え、中世・近世には商港として繁栄した鞆の津の地域性が表れている。

### 3-3-3 「旧大名・豪商・実業家・名士等に縁の雛人形・雛道具を含む展示」

「旧大名・豪商・名士等に縁の雛人形・雛道具を含む展示」には、旧大名家から寄贈の段飾り・雛道具等を含む鎌倉国宝館、実業家原三溪が特注した雛人形を含む三溪園、芥川(龍之介)家よりの寄贈の段飾りを展示するすみだ郷土文化資料館など11館(18%)の展示が挙げられる。

## 4 考察

前項「3 調査(実見)した展示についてⅡ」においては、「公家・大名家に伝来」「旧豪商・豪農家に伝来」「庶民」の雛人形・雛道具という括りで、それぞれの事例を挙げた。ここでは、前項での括りを取り外し、観る側の視点に立って、「見せ方」の観点からの考察を行う。

### 4-1 望まれる「見る側」の立場にたった「見せ方」

展示に際して、「見せる側」は常に「見る側」の立場に立った「見せ方」への留意が必要であろう。「見せる側」には自明なことであっても、「見る側」が分かる、あるいは、分かっていると限らないからである。

例えば、名工作の雛人形であるとの解説があっても、名工作のみの展示からは名工作で

ある由縁の理解は難しい。名工作の人形と名工作ではない人形とを並べて提示、比較による観察を容易にする工夫が必要である。

また、「玉眼」の場合に「玉眼」と記されていても、小さな人形の小さな眼に「玉眼」を確認するのは極めて難しい。「玉眼」の拡大提示など、「見る側」にとって「見やすい提示」、「理解しやすい提示」となるような「見せ方」の工夫、「見せ方」のテクニックが必要であろう。

このように、「見せ方」の工夫が望まれる一方、次ぎに挙げるような「見せ方」に工夫がみられる展示、さらに、一歩進めて斬新な発想、創造的な発想による展示も見られるのである。

#### 4-2 「見せ方」に工夫がみられる展示

「見せ方」に工夫がみられる展示は観る者を惹きつけ、驚きを与え、発展的思考に導く契機にもなるのではないと思われる。

例えば、方形の赤と円形の赤による造形的な美しさの演出（実際のケース内の赤い毛氈、展示室中央に設置された内裏雛に差しかけられた赤い和傘）（本間美術館新館）、2組の段飾りの一方を赤い毛氈、他方を黒い毛氈とした大胆な色彩の演出（荘内神社「宝物殿」）、展示ケースの上方部を色テープで覆った展示空間処理の工夫（雛人形の丈に対して展示ケースの丈が高いと雛人形が貧弱に見えることに対処）（徳島市立徳島城博物館）などは、展示構成やレイアウトなどの上で、美的な発想の刺激となる。

次ぎに、「見せ方」に斬新さがみられる展示を挙げる。

- (1) 市内の菓子司によって作られた豪華な雛菓子を、展示室中央に設えたケースで提示する構成は、脇役である雛菓子を中央に据えるという逆転の発想による「見せ方」である。

雛菓子と雛人形、そして、雛菓子作りと雛人形作りの技の競演が楽しめるものとなっている（致道博物館）（写真8）。

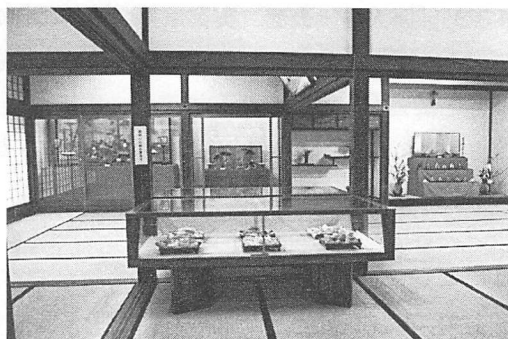


写真8 致道博物館

- (2) 雛道具の中の駕籠に相對して、本物の駕籠を展示した構成である。正に「見せ方」が工夫された事例であり、雛道具の駕籠と本物の駕籠を対比させながら、じっくりと比較鑑賞ができるものとなっている（彦根城博物館）（写真9）。

- (3) エントランスホールにおける展示であるが、4セットの雛飾りをピラミッド状に四方から飾り付け、最下段には多数の郷土雛を衛士のように並べてある。正に斬新な発想による展示であり、工夫ある「見せ方」といえる（指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ）（写真10）（注2）。

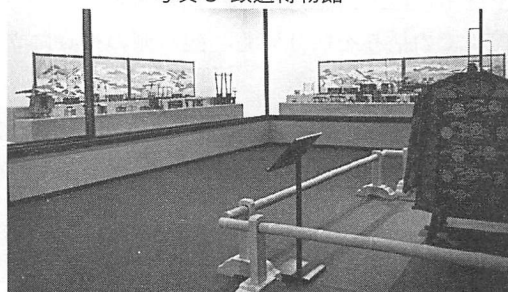


写真9 彦根城博物館

(4)白木の御殿（伊勢神宮遷宮時の廃材利用といわれる）付き大型の段飾りを展示室の中央に斜めに置く構成は、意表をつく「見せ方」である。段飾りを回りながら御殿の側面から背面まで見ることができ、鑑賞効果も高めるものとなっている（杉並区立郷土博物館）。

以上、「見せ方」に工夫や斬新さがみられる展示の例を挙げたが、一方において、旧来的な羅列的な展示もあり、展示姿勢にも大きな開きがみられる。



写真10 指宿市考古博物館

(写真提供：お茶の水女子大学 鷹野光行大学院教授)

### 4-3 「見せ方」の違い

名工による雛人形・雛道具の展示と、同一の資料を使った展示について、「見せ方」の違いをみる。

#### (1)「名工」による雛人形・雛道具の「見せ方」の違い

とちぎ蔵の街美術館の展示では、「江戸の人形文化と名工原舟月」と題して「江戸の名工」の作による人形類を全国各地から一堂に集めた「見せ方」である。一方、成田山書道美術館の展示では、「雛ふたたび－京丸平の人形展」と題して、現代において作られた「京の名工」の技を各種の人形により提示する「見せ方」となっている。

#### (2)同一の資料を使った「見せ方」の違い

国立歴史民俗博物館所蔵の『皇女和宮遺愛の内裏雛』を、久能山東照宮博物館の特別展示『徳川将軍家ゆかりの人形とひな道具』（2006年）では、展示室中央の独立ケースによるメイン資料としての「見せ方」である。一方、同じ資料を、国立歴史民俗博物館のミニ企画展「もの」から見る近世『和宮ゆかりの雛かざり』（2009年）では、壁付き展示ケースの中で、同じく遺愛の雛道具とともに、江戸時代末期の女性の暮らしや匠の技を紹介する「もの」としての「見せ方」となっている。

このように全く同一の資料であっても、「見せ方」の違いにより、観る側が受ける資料としての意味合いはかなり異なったものとなる。

### 4-4 「解説パネル」

#### 4-4-1 見やすい「解説パネル」

「解説パネル」は、見やすいこと、つまり読みやすいことが重要である。それには文章が平易であること、文字が大きいこと、ルビが豊富であることともに、美しいことが大切である。美しい「解説パネル」は、心理的に解説を読みやすいものにすると考えられる。

例えば、文章量が多く表現も硬い解説文も、美しい縁取りのパネルに仕立てられている

---

ことにより、観る者を立ち止まらせ、説明を読む気を起こさせている場合（諏訪市博物館）があり、花模様のおしゃれな台紙が使われた「解説パネル」が観る者を惹きつけている場合（御花史料館）もある。

なお、調査した展示の「解説パネル」では、前記2例の他に、白地にピンク色の桜の花弁ちらしが3、ピンク・黄・緑のぼかしが1、カット入りが1、上下に淡い色模様が1、上下にピンク色のぼかし1、上端にピンク色1、ピンク色台紙1が見られ、その他に、黒線入りが1、黒地に白文字が1、黒い台紙に雑道具の写真と白地の小型パネルが1である（14館23%）。

#### 4-4-2 配慮ある「解説パネル」の設置

壁面一杯の大きな段飾りの提示において、同じ内容の「解説パネル」が右端と左端に掲示してあり、解説を読むため戻らなくてすむよう配慮されている場合がある（三井記念美術館）。

また、「解説パネル」を手にとって見られるよう小型ケースに入れた解説が小さな椅子に置かれており、子どもでも車椅子利用者でも壁面や展示台のパネルを仰角でなく読むことができるのも、配慮ある「解説パネル」の設置例である（日本玩具博物館）。

#### 4-4-3 「解説パネル」の文字方向（縦書き・横書き）と動線

動線の方向と、解説文の文字方向つまり解説文の文字が縦書きであるか、横書きであるかということが、「見やすさ」に影響を与えると常々筆者は考えている。動線が時計回りの場合は解説パネルの文字は横書き、反時計回りの場合は縦書きであると、1枚の解説パネルの文を読み終えて、次ぎに歩を進めるのに抵抗はないが、逆の場合、つまり、時計回りの場合の縦書き、反時計回りの場合に横書きであると抵抗を覚え、見やすいとはいえない。

今回調査した雑人形の展示では、時計回りの動線が27館（45%）、反時計回りの動線が33館（55%）みられ、反時計回りの方が多。一方、解説文の文字は横書きが52館（87%）であるのに対し、縦書きは8館（13%）である。動線が時計回りの場合では、横書きが27館（78%）、縦書きが6館（22%）であるのに対し、動線が反時計回りの場合では、横書きが31館（94%）、縦書きは2館（6%）に留まっている。縦書き・横書きのいずれの書き方も使える日本語の利点を、動線との関係でもっと活かしてもよいのではないだろうか。展示室入口にまとめたの掲示であるが、雑道具の写真解説は手書き横書きであった（熊本県立美術館）。雑人形・雑道具という展示資料の時代性を考える時、手書き縦書きによる解説文は、雰囲気作りにもプラスになるのではないかと思われる。

#### 4-5 来館者の年齢層と「展示室の明るさ」に関して

雑人形展示の来館者の7～8割は女性であり、その多くが中高年といわれ、筆者も展示会場で実感した。聞き取りによっても、男3：女7（3館）、男2：女8（2館）、男4：女6（1館）、男1：女9（1館）であり、平均すると男3：女7となる。また、安城市歴史博物館の企画展『雑

のみやび』(2006年度)のアンケート調査でも、男性21%に対し、女性79%であり、60代以上が48%となっている。

一方、筆者が観る者として、展示室に入る際に感じた明るさ・暗さを4段階に分けると、[明るい]は13館(22%)、[普通]は34館(57%)、[暗い]は9館(15%)、[特に暗い]は4館(7%)となる。同種の資料の展示とは思えないほど展示室の明るさ・暗さには大きな差がある。[特に暗い]場合では、来館者から「足元が危ないから明るくしてほしい」との要望が出されるといわれ、解説シートも読めないほどの暗さもある一方、[明るい]場合では、こんなに明るくて良いのかと思われるほどの明るさもある。

「展示室の明るさ」は、展示室に足をふみ入れたとき、展示室外との明るさの落差が大きいと、心理的に影響を及ぼすことも考えられる。資料保存の点も考慮の上、来館者の年齢層への十分な配慮が必要であろう。

## 5 むすび

雛人形展示を観ている者の幸せそうな表情や、「綺麗ね」、「懐かしいわ」などの会話は、博物館の楽しませる側面の表れであり、展示の意義の一つであろう。しかし、博物館の展示は、視覚による「綺麗」、心情による「懐かしい」に留まらず、その奥に潜むものを引き出せるような「見せ方」でなければならない。「展示意図」が伝わり、「展示資料」と「観る側」とが相呼応できるような「見せ方」であれば、展示から多くの情報が得られ、観る側の満足感も大きく、有意義な鑑賞となるのではないだろうか。

一方、「見せ方」に、もう少し工夫、テクニックがあればと思われる展示が少なからずみられた。雛人形展示における高い集客力、雛人形への関心の高まりがある現状は、雛人形を研究する好機といえよう。博物館における雛人形についての調査研究の進展とともに、「見る側」に立った「見せ方」に関する研究も進められることを期待したい。

## 謝辞

本稿作成にあたり、お茶の水女子大学博物館学資料室所蔵の資料を閲覧させていただきましたことを深謝いたします。

なお、各地の雛人形展示の調査に際しては、博物館等の館長をはじめ学芸員・研究員、その他館員の方々に大変お世話になり、また、多々ご示唆をいただきました。以下に、博物館等の館名およびお世話になった方々のお名前を括弧内に記し、感謝の意を表します。鎌倉国宝館(内田浩史学芸員)、鎌倉古陶美術館(長谷川正館長)、茨城県立歴史館(石川武治首席研究員)、埼玉県立民俗文化センター(内田幸彦学芸員)、秋田県立博物館(高橋正学芸主事)、東京国立博物館(小山弓弦葉研究員)、大磯町郷土資料館(北水慶一学芸員)、羽村市郷土博物館(石川悦子学芸員、岩淵睦学芸員)、すみだ郷土文化資料館(末木より子専門員)、成巽閣(吉竹泰雄館長、池内静子学芸員)、京都府京都文化博物館(藤本恵子学芸員)、とちぎ

蔵の街美術館(善野裕子学芸員)、三溪園(清水緑学芸員)、杉並区立郷土博物館(大楽和正学芸員)、水戸市立博物館(坂本京子学芸員)、知多市歴史民俗博物館(石川秀男学芸員)、長野県立歴史館(霜田英子学芸員)、博物館さがの人形の家(池田章子館長)、京都国立博物館(山川暁研究員)、根津美術館(多比羅菜美子学芸員)、三井記念美術館(小林祐子学芸員)、毛利博物館(小田陽子学芸員)、徴古館(藤口悦子主任学芸員・野口明子学芸員)、御花史料館(才藤あずさ学芸員)、熊本県立美術館(高浜州賀子美術専門員)、日本玩具博物館(尾崎織女学芸員)、久能山東照宮博物館(小林明学芸部長)、吉徳資料室(小林すみ江資料室長・林直輝学芸員)、豊橋市二川宿本陣資料館(花井祐美子学芸員)、安城市歴史博物館(平岩里張学芸員)、知立市歴史民俗資料館(近藤真規学芸員)、岡崎市郷土館(伊藤久美子学芸員)、田原市博物館(鈴木利昌係長)、田原市渥美郷土資料館(惣ト義彦文化財係長)、成田山書道美術館(成田山仏教図書館 大木雅雄総務係長)、佐野美術館(坪井則子学芸員)、福山市鞆の浦歴史民俗資料館(壇上浩二学芸員)、徳島市立徳島城博物館(小川裕久学芸員)、宇和島市立伊達博物館(本田耕一館長・上田理沙学芸員)、愛媛県歴史文化博物館(宇都宮美紀学芸員)、諏訪市博物館(亀割均館長)、須坂市立博物館(涌井二夫館長)、田中本家博物館(吉村奈岐学芸員)、上田市立博物館(塩崎幸夫学芸員・小宮山千左氏)、本間美術館(田中章夫館長)、致道博物館(酒井賀世学芸員)。(注：順不同、館名および役職等は調査時点のものである)

注1 調査の対象とした博物館は、展示資料(雛人形)の性質上、総合博物館、歴史系博物館、美術系博物館、郷土系博物館とした。なお、総合博物館→「総合」、歴史系博物館→「歴史系」(館名に歴史と付されている博物館、歴史に分類されている博物館、その他寺社・旧邸宅等において継続的に雛人形の公開展示を行っているところを若干含む)、美術系博物館→「美術系」(館名に美術と付されている博物館、美術に分類されている博物館)、郷土系博物館→「郷土系」(館名に郷土と付されている博物館、郷土に分類されている博物館)と略してある。

注2 お茶の水女子大学鷹野光行大学院教授から写真のご提供とご説明をいただいたものであり、60館の調査対象外である。

## 参考文献

(博物館学関係)

- 青木 豊 2000「博物館展示」『新版 博物館学講座 第9巻 博物館展示法』加藤有次 他編 雄山閣出版
- 飯島康夫 1998「博物館における展示の問題」『民俗世界と博物館』日本民俗学会編 雄山閣出版
- 大塚和義 1991「展示技術論Ⅰ シナリオ」『博物館学Ⅱ - 博物館の仕事 -』大塚和義・矢島國雄 放送大学教育振興会



- 
- 大貫良夫 1997「もの見せ方」『岩波講座 文化人類学 第3巻「もの」の人間世界』岩波書店
- 加藤有次 1990『博物館学序論』雄山閣出版
- 加藤有次 1998『博物館学総論』雄山閣出版
- 勝部明生 1985「博物館の展示」『博物館学概説』網干善教他編 仏教大学
- 倉田公裕・矢島國雄 1997『新編 博物館学』東京堂出版
- 林 公義 1984「展示」『博物館概論』伊藤寿朗・森田恒之編 学苑社
- 日比野光敏 1993「<情報提供展>の試み－特別展「日本の味覚 すし グルメの歴史学」の展示構  
想と実際－」『研究紀要 7』岐阜市歴史博物館
- 村上義彦 1992『博物館の歴史展示の実際』雄山閣出版
- 日本博物館協会 1999～2007『博物館研究』Vol.34～42  
(雛人形関係)
- 有坂興太郎 1943『雑祭新考』建設社
- 池田萬助・池田章子 2000「さがの人形の家」『紀要 第6号』イマノ人形文化保存財団
- 石村貞吉 2006『有職故実』(上・下) (講談社学術文庫) 講談社
- 宇都宮美紀 2006「八代村庄屋菊池家の節句飾り資料について」『研究紀要 第11号』愛媛県歴史  
文化博物館
- 大村進 他 1988「埼玉の雛人形」『埼玉県民俗工芸調査報告書 第6集』埼玉県立民俗文化セン  
ター
- 小川裕久 2002・03・06「雛人形の世界を辿る」『同前(2)・(3)』『ひな人形の世界』(図録2・3・6)  
徳島市立徳島城博物館
- 是澤博昭 2005『江戸の人形文化と名工原舟月－人形師・雑祭り・山車人形－』(図録)とちぎ蔵  
の街美術館
- 後藤道雄 1998「人形－一橋家伝来品を中心に－」『一橋徳川家の人形』(図録)茨城県立歴史館
- 斎藤良輔 1975『ひな人形』法政大学出版局
- 澤田和人 005「和宮ゆかりの雛と人形」『歴博』第128号 歴史民俗博物館振興会  
『諏訪のおひなさま』(諏訪市博物館所蔵 雛人形資料集) 2005 諏訪市博物館
- 半澤敏郎 1990『生活文化歳事史 第Ⅱ巻』東京書籍  
『雑祭－鞆の津の栄華－』(作品集) 2004 福山市鞆の浦歴史民俗資料館
- 藤田順子 2001『お雛さまをたずねて－各地で見られる雛と受け継ぐ心』J T B
- 山田徳兵衛編 2001『図説日本の人形史』東京堂出版
- 日本人形玩具学会 1998～2006『人形玩具研究』Vol.9～16

付図【雛人形展示の展示期間(展示開始月日順)(2006-2007年)】

館名	1月																															2月																															3月																															4月																														
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24																																																						
1. 三溪園																																																																																																																												
2. 宮永隆興美術館																																																																																																																												
3. 吉徳資料室																																																																																																																												
4. 知多市歴史民俗博物館																																																																																																																												
5. 長野県立歴史館																																																																																																																												
6. 水戸市立博物館																																																																																																																												
7. 豊橋市二川宿本陣資料館																																																																																																																												
8. 沼津御用邸記念公園西側展館																																																																																																																												
9. 知立市歴史民俗資料館																																																																																																																												
10. 上田市立博物館																																																																																																																												
11. 日本玩具博物館																																																																																																																												
12. 毛利博物館																																																																																																																												
13. 田原市博物館																																																																																																																												
14. 佐野美術館																																																																																																																												
15. 徳島市立徳島城博物館																																																																																																																												
16. 田原市歴史郷土資料館																																																																																																																												
17. 岡崎市郷土館																																																																																																																												
18. 安城市歴史博物館																																																																																																																												
19. 成田市香道美術館																																																																																																																												
20. 諏訪市博物館																																																																																																																												
21. 美濃県立歴史館																																																																																																																												
22. 御花史料館																																																																																																																												
23. 博物館さがの人形の家																																																																																																																												
24. 徳川美術館																																																																																																																												
25. 鎌倉園芸館																																																																																																																												
26. 播山市頼の浦歴史民俗資料館																																																																																																																												
27. 宇和島市立伊達博物館																																																																																																																												
28. 田中本家博物館																																																																																																																												
29. 杉並区立郷土資料館																																																																																																																												
30. 熊本県立美術館																																																																																																																												
31. 依古館																																																																																																																												
32. 京都国立博物館																																																																																																																												
33. 荏内神社宝物殿																																																																																																																												
34. 根津美術館																																																																																																																												
35. 豊橋県歴史文化博物館																																																																																																																												
36. 三井記念美術館																																																																																																																												
37. 本間美術館																																																																																																																												
38. 藤野温史文化史料館																																																																																																																												
39. 致道博物館																																																																																																																												
40. 須坂市立博物館																																																																																																																												
41. 久能山東照宮博物館																																																																																																																												